

再発見！ふるさとの山城 岡山県中世城館跡総合調査

攻略！おかやまの中世城館

第三巻（美作国東部編）



竹山城から見た小原山王山城（美作市）

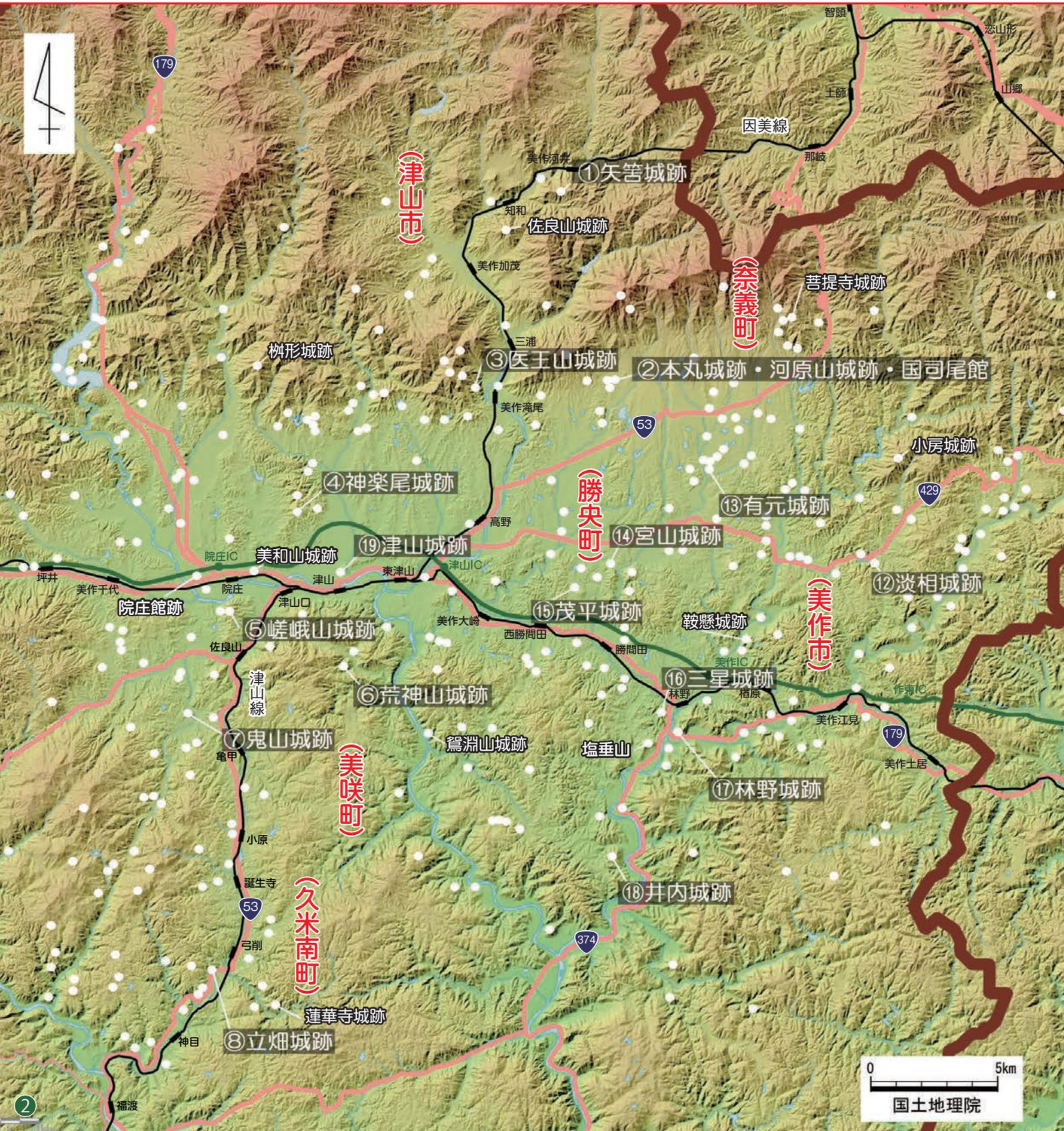
美作国東部の中世城館跡に迫る！

かつて美作国と呼ばれた岡山県北東部は、1,000m前後の山々が連なる中国山地に抱かれた山国で、吉井川の上流に開けた津山盆地は、古くから山陰と山陽を結ぶ交通の要衝として栄えました。そんな美作国にも戦乱の時代が訪れます。1336年から約60年間続く南北朝の争乱や、美作国守護の赤松満祐が室町幕府の6代将軍を暗殺した1441年の嘉吉の乱、8代将軍の後継者をめぐり1467年から11年にわたって争われた応仁・文明の乱などを経て、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）が1590年に全国統一を果たすまで、群雄割拠の乱世は実に約250年間も続きました。美作国の国人（在地の有力武士）達は、戦乱の時代を力の限り戦い、ある者は勢力を拡大し、ある者は没落してゆきました。一方、この争乱にさらされた農村では、惣と呼ばれる自治組織を作り、荘園領主や守護大名に対抗するところも現れました。現在、伝承地も含めて約500か所を数える美作国の城館跡は、厳しい戦乱の時代を物語る証人として、ひっそりと山野に眠っています。

このパンフレットでは、県内に所在する中世城館跡の保護と活用の基礎資料を作成するため、岡山県古代吉備文化財センターが平成25年度から7年計画で実施している岡山県中世城館跡総合調査の成果をもとに、美作国東部の城館跡を紹介します。

美作国東部の中世城館

美作国では南北朝から室町時代にかけて、播磨国を本拠とする赤松氏と因幡・伯耆国に勢力を誇る山名氏が美作国守護をめぐって激しく争いました。戦国時代には備前国の浦上氏や出雲国の尼子氏などが美作国へ進出し、その終わりごろには尼子氏を倒した毛利氏と浦上氏を逐った宇喜多氏の間で激しい戦いが繰り広げられました。一方、美作国の東部では菅原道真の後裔とされる美作管家党（有元氏・広戸氏・植月氏・原田氏・鷹取氏・江見氏など）や、垺和氏、後藤氏、草苺氏、新免氏などの国人たちが活躍しました。彼らは、めまぐるしく変わる守護大名のもとで互いに勢力の拡大をはかりましたが、美作一国をまとめる戦国大名へと成長することはできませんでした。



【美作国】 東部 中世城館略年表

白丸：城跡・館跡
(推定地・伝承地を含んでいます)



時代	西暦	元号 (南朝)	主なできごと	
南北朝時代	1338	暦応元 (延元3)	足利尊氏が征夷大将軍に任じられ、幕府を開く。	
	1345	貞和元 (興国6)	このころ佐々木秀貞が美作国守護となる。	
	1348	貞和4 (正平3)	美作や備前の国人が四条畷で南朝方と戦う。	
	1353	文和2 (正平8)	足利義詮が渋谷小四郎入道に南朝方退治を命じる。	
	1355	文和4 (正平10)	足利尊氏が鞍懸城 (美作市) の警固を赤松勢の上月氏に命じる。	
	1356	延文元 (正平11)	このころまでに赤松貞範が美作国守護となる。	
	1361	康安元 (正平16)	赤松則祐・貞範が鞍懸城・菩提寺城 (奈義町) などで山名時氏・師義と合戦。山名方の優勢が伝えられる。	
	1362	貞治元 (正平17)	赤松則祐が竹山城 (美作市)・石堂城 (同) などの修築を行うため、播磨国矢野庄から人夫を徴用する。	
	1364	貞治3 (正平19)	山名時氏が幕府に帰順し、山名義理が美作国守護となる。	
	1392	明德3 (元中9)	南朝と北朝が統一される。 山名義理が美作国守護職を罷免され、播磨・備前国守護赤松義則に与えられる。	
室町時代	1441	嘉吉元	播磨・備前・美作国守護赤松満祐が6代将軍足利義教を誘殺する (嘉吉の乱)。赤松氏が幕府追討軍に敗れて滅亡し、山名教清に美作国守護職が与えられる。	
	1467	応仁元	8代将軍足利義政の後継をめぐり応仁・文明の乱が起こる。 赤松勢が南峽 (美作市)・塩垂山 (同) に布陣し、美作国守護山名教清と対戦する。赤松政則に備前・美作国等の守護職が与えられる。	
	1470	文明2	赤松政則の部将が山名勢と鷲淵山 (美咲町) に戦う。	
	1480	文明12	山名勢が美作に進出し、新免氏の小房城 (美作市) を攻める。	
	1484	文明16	山名勢が美作・備前・播磨を制圧し、院庄 (津山市) に山名政理が入る。	
	1488	長享2	赤松政則が但馬守護山名政豊を破って院庄を攻略し、美作国を奪還する。	
	1490	延徳2	山名勢が再び美作国に侵入し、赤松方の後藤・江見・新免氏が迎え撃つ。	
	1520	永正17	赤松義村が浦上村宗に味方した粟井氏の城 (美作市) を攻撃する。	
	1536	天文5	出雲の尼子詮久 (晴久) が備中・美作を攻略する。	
	1552	天文21	尼子晴久に備前・美作・備中国等の守護職が与えられる。	
戦国時代	1556	弘治2	赤松晴政が吉野郡 (美作市) に派兵して尼子方の後藤・江見氏らと交戦する。	
	1560	永禄3	このころ三星城の後藤氏が尼子氏から離れ浦上氏に味方する。	
	1565	永禄8	毛利方の備中松山城主三村家親が江見氏の林野城を攻略し、後藤氏の三星城を攻める。	
	1566	永禄9	毛利元就が出雲国富田城を攻略し、尼子氏を滅ぼす。	
	1572	元亀3	後藤氏が毛利氏に従い、浦上宗景に三星城を包囲される。	
	1573	天正元	織田信長が15代将軍足利義昭を追放し、室町幕府が滅びる。	
	1575	天正3	宇喜多方の諸将が蓮華寺城 (久米南町) に籠もり、浦上氏の攻撃を退ける。	
	1577	天正5	竹山城主新免宗貴が織田信長に従い居城を安堵される。	
	1579	天正7	宇喜多直家が毛利方の祝山城 (津山市) を包囲、毛利方が援護のため升形山 (鏡野町・津山市) に築城する。	
	1580	天正8	宇喜多氏と毛利氏の間で美作諸城の争奪戦が展開される。	
安土・桃山時代	1582	天正10	羽柴秀吉が備中高松城を攻囲中に織田信長が討たれ、毛利氏と講和する。	
	1583	天正11	毛利方の草薙重継が宇喜多方の石米城 (津山市)・佐良山城 (同) を攻める。	
	1585	天正13	毛利氏との領国境が確定し、宇喜多秀家は備前・美作と備中東半 (高梁川以东) を領有。	
	1590	天正18	豊臣秀吉が全国を統一する。	
	1600	慶長5	関ヶ原の戦いで宇喜多勢が敗北、小早川秀秋が備前・美作に入り岡山城主となる。	
	江戸時代	1603	慶長8	徳川家康が征夷大将軍に任じられ幕府を開く。森忠政が美作に入る。
		1604	慶長9	森忠政が鶴山に津山城を築く。

■草苅氏三代の居城

①矢筈城跡

【津山市加茂町山下・加茂町知和】
矢筈山の山頂に築かれた山城で、麓との比高は350～450mもあります。城域は東と西に分かれており、東の城より100mほど低い西の城には石列や石垣が見られます。

『草苅氏覚書』などによると草苅衡継・景継・重継3代の居城とされ、戦国末期には、宇喜多氏や羽柴秀吉等からたびたび攻撃を受けましたが、そのつど撃退したといわれています。



遠景

【県史跡】

■県下最大の土塁で守られた河原山城

②本丸城跡・河原山城跡・国司尾館

【津山市市場・大岩】
山形仙の南麓、広戸川を溯って旧加茂町に抜ける街道沿いの市場地区では三つの城館を間近に見ることができます。いずれも来歴は不明ですが、縄張りの様子からすると、南側の本丸城が築かれた後に河原山城と国司尾館が設けられたようです。特に注目されるのは河原山城で、一辺50mを囲む高さ6mの土塁は県下でも最大規模といえます。同様の土塁は隣接する国司尾館にも見られ、同時に使われていたようです。



河原山城跡 遠景

【市史跡】

■激戦が伝わる毛利方の城

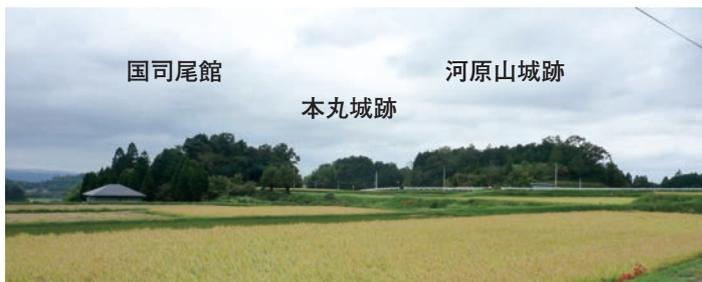
③医王山城跡

【津山市吉見・綾部】
加茂川を見下ろす標高約340mの山頂に築かれた山城です。南北に長い城域を持ち、北の尾根鞍部に連続堀切、南の尾根先端に放射状堅堀群を配しています。宇喜多氏のもとで改修され、高所の曲輪には石垣や虎口（出入口）を設け、瓦葺き建物を建てていたようです。『秋藩閩閩録』等では、戦国末期には毛利方の拠点として宇喜多勢と攻防を繰り返したと伝えます。



遠景

【市史跡】



遠景

■争奪が繰り返された山城

④神楽尾城跡

【津山市上田邑・下田邑・小原・総社】
標高308mの神楽尾山上に築かれた山城です。山頂を含めた3か所の高所に曲輪群を設け、要所に土塁・堅堀を配しています。曲輪群を繋ぐ鞍部には、武者溜り・馬場と呼ばれる長大な平坦地を造成しているのが特徴です。『太平記』に見える「神楽尾ノ城」に比定され、赤松氏・山名氏・尼子氏・毛利氏らによって争奪戦が繰り返されたといわれています。



遠景

【市史跡】

■津山盆地西部を一望する山城

⑤嵯峨山城跡

【津山市中島・平福・美咲町錦織】
吉井川と皿川に挟まれた標高288mの嵯峨山山頂付近に築かれた山城です。土塁で囲まれた主郭を中心に帯曲輪がめぐっており、南東側には横堀や複数の堅堀を設けています。『花房家記事』によると、元亀年間（1570～1573年）頃、毛利方の武将が入っていたこの城を、荒神山城にいた宇喜多氏の部将花房職秀が攻め取ったと記されています。



遠景

【市史跡】

■複雑な虎口をもつ宇喜多氏の山城

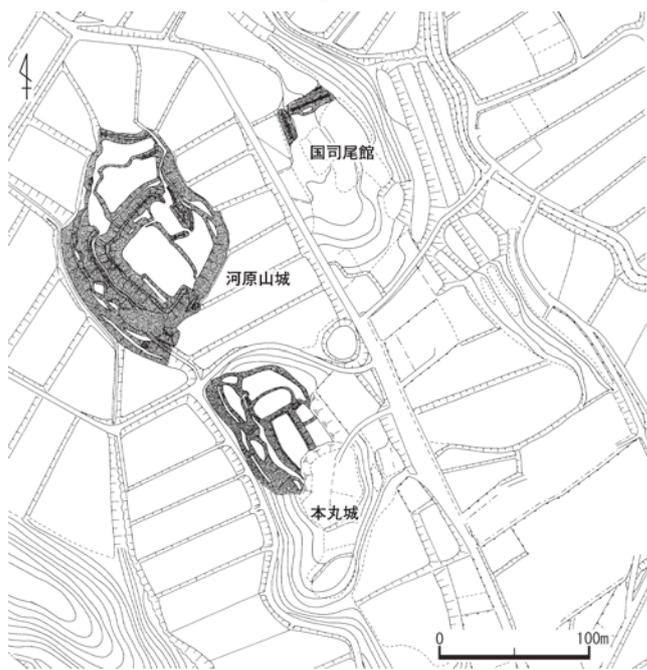
⑥荒神山城跡

【津山市荒神山】
吉井川西岸の谷あいにはそびえる標高298mの山頂一帯に立地する山城です。堀切や堅堀、土塁、石垣のほか、喰い違いや、枡形を設けた虎口（出入口）、凸形の張り出しを設けた曲輪など、防御に工夫をこらしているのが特徴です。また、瓦葺きの建物が建っていたことが分かっています。『作陽誌』は、宇喜多氏の部将花房職秀が在城したと伝えています。



遠景

【市史跡】



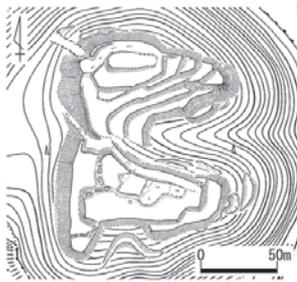
縄張り 1/5,000

交通の要衝に築かれた山城

おにやま ⑦ 鬼山城跡

【美咲町打穴中】

津山往来と出雲往来を結ぶ打穴川の流域を眼下に一望できる、標高170m（比高差50m）の鬼山山頂に築かれています。西側は7m前後の高い切岸によって防御が固められ、城を南北に分ける東側の谷筋にも階段状の曲輪が密に配置されて横矢を効かせています。直線的なあり方を示す南の曲輪が中心であったと考えられます。



縄張り 1/5,000

津山往来を見下ろす山城

たてはた ⑧ 立畑城跡

【久米南町上二ヶ】

南に延びる尾根の先端部に築かれた山城です。頂部の主郭を中心に大小の曲輪を設け、その先の尾根筋を一条、背後の尾根筋を二条の堀切で切断し、守りを固めています。『久米郡誌』では宇喜多氏将士の屯営の跡かと推定していますが、よく分かっていません。眼下を南流する誕生寺川流域だけでなく、東方の谷筋も眺望できる位置にあり、交通の要所を占める山城といえます。



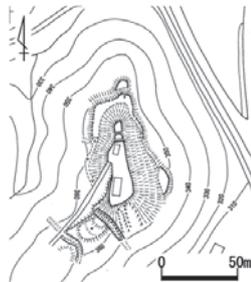
堀切

美作最北東に築かれた城

さぶち ⑨ 佐淵城跡

【西粟倉村長尾】

因幡との国境付近の低い丘陵に築かれた小規模な城ながら、東方に吉野川流域を一望できます。尾根の頂部に中心となる曲輪を造り、その下方に帯曲輪や小曲輪を配しています。また南側の尾根鞍部は2条の堀切で守っています。『東作誌』によると、天正年間に草苅重継の弟与次郎（矢筈城城主草苅重継の三男）あるいは須々木主計が在城したと伝えます。



縄張り 1/5,000

さまざまな防御をこらした城

おばらさんのうさん ⑩ 小原山王山城跡

【美作市古町】

吉野川と後川流域を一望する山頂に築かれた山城です。北東から南西に延びる尾根上に大小の曲輪を連ね、尾根筋に多重の堀切、斜面におびただしい数の畝状堅堀群を配して、城の周囲を強固に守っています。『太平記』の「小原城」に比定されるこの城の主は小原氏から宇野氏へと替わり、新免氏が城主の時に竹山城へ移ったと伝えられています。



主郭

新免氏三代の居城

たげやま ⑪ 竹山城跡

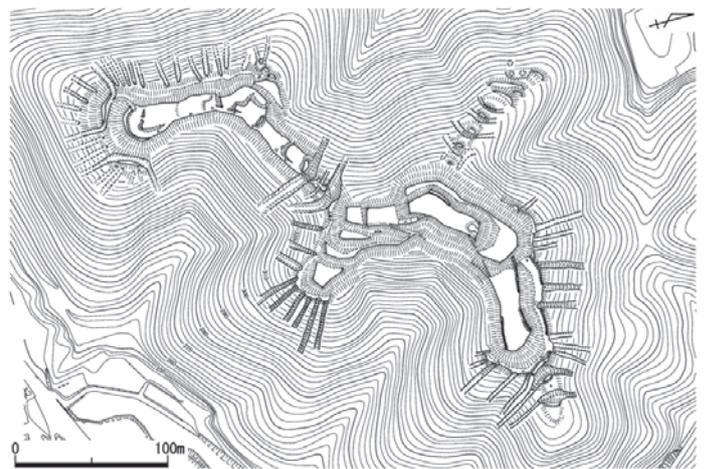
【市史跡】

【美作市下町】

因幡往来で栄えた下町を北の眼下に望む、標高430mの山頂に築かれた要害で、古くは『太平記』に「竹山」の名が見え、すでに南北朝時代には存在していたようです。明応2年（1493年）以降は新免氏の居城となっていました。中央の「馬場」を挟んで西側に「西の丸」、東側に「本丸」を配した全長250mの規模を誇り、吉野郡屈指の山城といえます。



遠景

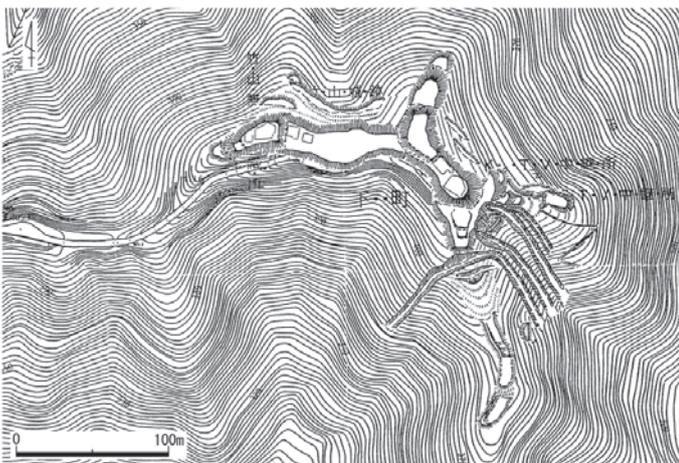


縄張り 1/5,000

『太平記』とは

鎌倉幕府の滅亡から南北朝時代の戦乱を描いた物語で、平家の繁栄と没落を描いた『平家物語』と並ぶ、軍記物の代表とされます。ほぼ同時代に生きた複数の作者によって1370年頃までに編まれた全40巻の大作で、物語僧によって語られ民衆の間に広まりました。歴史資料としては、脚色や誤伝が含まれるため注意が必要ですが、この地域の動向を伝える貴重な資料となっています。

延文5年～康安元年（1360～61年）に赤松勢が山名勢と交戦した記事には、神楽尾ノ城や小原城、林野、竹山などの城が見えます。



縄張り 1/5,000

■大規模な横堀をもつ粟井氏の居城

あわい
⑫淡相城跡

【美作市粟井中】

粟井川左岸の隣り合う2つの丘陵に築かれた城館で、春日神社が鎮座する西の城は大規模な堀切や横堀、高い切岸で堅固に守っています。特に複雑に屈折した延長約80mの横堀は、底幅約5mと巨大で、底の一部は沼になっています。『古城之覚』によると、赤松氏に属した美作菅家党、粟井氏の居城で、天正7年(1579年)、宇喜多直家により落城したと伝えられます。



横堀

美作国東部の国人たち

美作国東部の那岐山麓一帯を本拠とする美作菅家党は、菅原道真の後裔と伝えられ、菅家七流と称された有元・広戸・福光・植月・原田・鷹取・江見氏のほか、皆木・豊田・粟井・菅納氏などを加える説もあります。元弘3年(1333年)、隠岐島を脱出し伯耆国(鳥取県)船上山で鎌倉幕府打倒の兵を挙げた後醍醐天皇にいちやく味方しており、四条猪熊(京都府)の合戦では有元兄弟をはじめ福光・植月・原田・鷹取氏らが六波羅勢に打ち取られたことが『太平記』に見えます。室町時代には、美作国守護をつとめた赤松氏や山名氏のもとで活躍し、有元氏や広戸・垺和・江見氏のように奉公衆や外様衆として幕府に仕えるものも現れました。しかし、16世紀前半の尼子氏進出を契機に武士団としての結束は乱れていきます。その後、美作菅家党の国人たちは備前・美作国を領した宇喜多氏に仕えましたが、関ヶ原の戦いに敗れて改易されると帰農の道を選びました。

このほか美作国東部では、三星山に居城を構えた後藤氏がよく知られています。14世紀中頃に勝田郡塩湯郷(美作市湯郷)の地頭を務めた後藤氏は、16世紀初頭に美和山城(津山市)の立石氏や讃甘庄(美作市)の豊福氏を逐い、江見・安東・小坂田氏らをしたがえて地歩を固めました。一時、美作を支配していた尼子氏が衰退すると天神山城(和気町)の浦上氏に属しますが、その旗下から台頭した宇喜多直家に攻められ、天正7年(1579年)に滅亡します。

■有力国人 後藤氏の居城

みつぼし
⑬三星城跡

【美作市明見・入田】

梶並川と滝川の合流点を東に見下ろす三星山に築かれた美作最大級の山城です。山頂から南・北に派生する尾根筋に大小多数の曲輪・堀切・畝状堅堀などを設けており、北尾根には折れ曲がりのある長大な土塁が残っています。『岡山県勝田郡志』は、塩湯郷(美作市湯郷)の地頭職を得た後藤氏の居城で、天正7年(1579年)、宇喜多勢により落城したと伝えています。



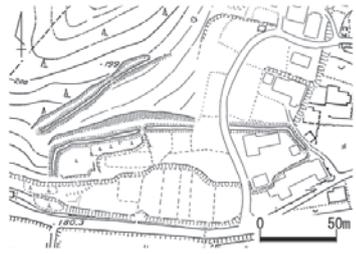
遠景

■美作菅家党 有元氏の居館

ありもと
⑭有元城跡

【町史跡】
【奈義町中島東】

名義川と高殿川の合流点を望む、那岐山麓南端の丘陵先端部にあります。丘陵との間に横堀を掘削して土塁をコ字形にめぐらせた、東西170m、南北50mの狭い矩形の縄張り、周辺との比高差があまりないことなどから館城と考えられます。この北東にある土塁の背後にも方形の区画があり、関連施設の存在も推測されます。



縄張り 1/5,000

■美作菅家党 植月氏の居城

みややま
⑮宮山城跡

【町史跡】
【勝央町植月中】

今池川の南岸に広がるなだらかな丘陵の頂部に立地しています。高さ約3~4mの急峻な切岸で守りを固めた方形居館であり、その北辺には高さ約2mの土塁が認められます。また、この北側から東側にかけて大小3つの小曲輪を配置しています。『美作鬘鑑』、『東作誌』によれば、後醍醐天皇の挙兵に呼応した植月重佐が在城したとされ、主郭に顕彰碑が建っています。



縄張り 1/5,000

■発掘調査された館城

もびら
⑯茂平城跡

【町史跡】
【勝央町大平台】

勝央中核工業団地の一角にあった城跡で、比高差15mの丘陵頂部にある主郭の周囲には5つの曲輪を配置しています。発掘調査によって13棟の建物や貯蔵施設と見られる地下式横穴、井戸、堀切が見つかったほか、16世紀後半~17世紀後半の備前焼・陶磁器・土師器・石臼・五輪塔なども出土しており、在地の有力者が居住した館城と考えられます。



郭1の掘立柱建物群



遺構全体図 1/1,000【県報告111】より転載

■南北朝時代にはじまる山城

はやし の
①7 林野城跡

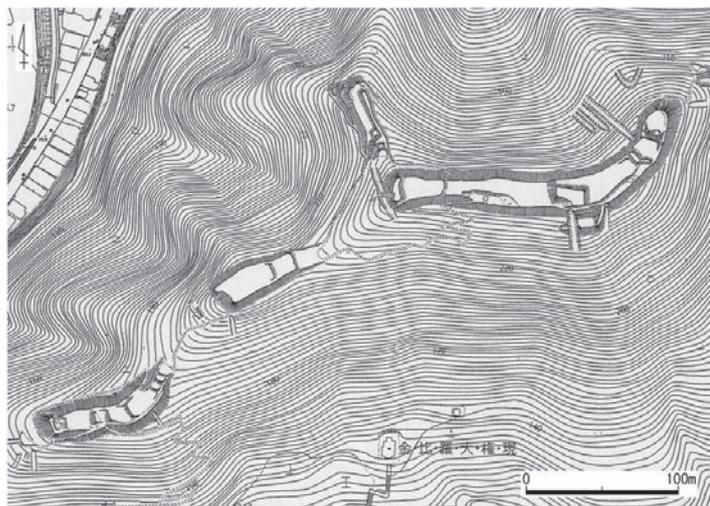
市史跡

【美作市林野・朽木・栄町】

吉野川と梶並川が合流する林野は水陸交通の要衝で、城はこの二つの川に挟まれた標高249mの城山山頂にあります。南北朝時代にはすでに存在していたようで、頂部に残る単郭の縄張りにその様子がうかがえます。その後、戦国時代になると頂部を含め尾根筋に新たな曲輪が造成されるなど要害化が図られました。



主郭付近



縄張り 1/5,000

■曲輪を守る堅固な防御線

いのうち
①8 井内城跡

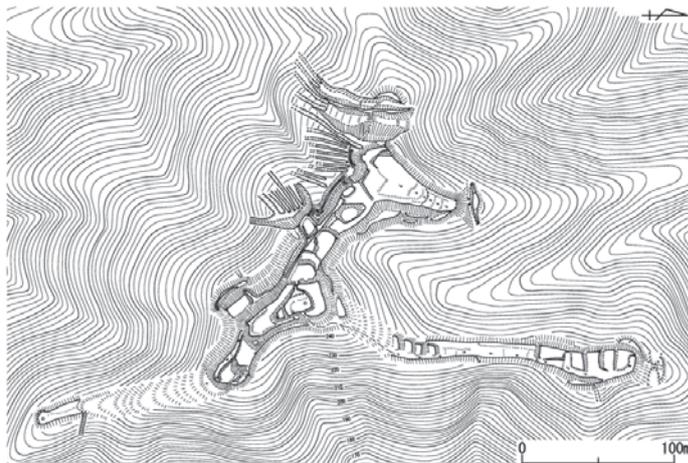
市史跡

【美作市下山・鳥淵】

吉野川右岸の大仙山に築かれた大規模な山城です。山頂の尾根筋に曲輪を連ね、その西端に深さ7～10mもある2重堀切を設けています。城の南西には土塁、その下方に横堀や弧状の堀切・畝状縦堀を配して守りを固めています。『美作鏡』は、下山筑後守の在城を伝えており、天文13年(1544年)に尼子勢、天正7年(1579年)に宇喜多勢に攻められたようです。



横堀



縄張り 1/5,000

■戦国の終わりを告げる壮大な城

つやま
①9 津山城跡

国史跡

【津山市山下】

津山城は、慶長8年(1603年)に徳川幕府から美作国を与えられた森忠政が、13年の年月をかけて築いた平山城で、山頂の本丸を中心に二の丸、三の丸を階段状に配しています。明治初年に建物は撤去されましたが、今も残る豪壮な石垣や、復元された備中櫓が往時を偲ばせます。



復元された備中櫓

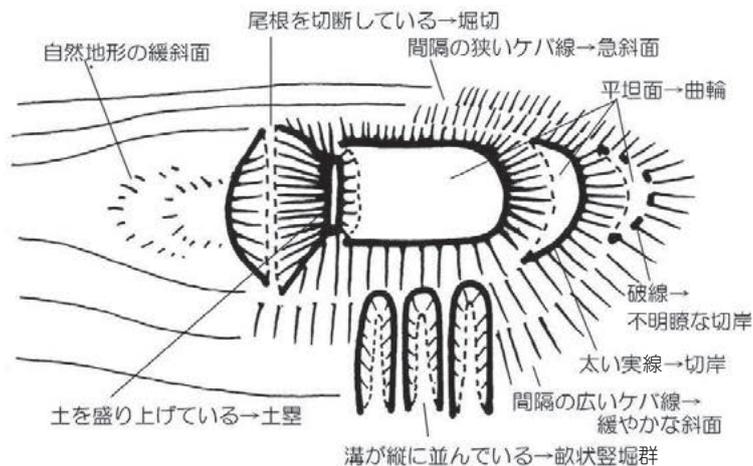
津山城の城下町は、吉井川の北岸を走る出雲往来に沿って、東西に長く形づくられています。武家地は北側の高台に配置され、さらにその北には藩主の別邸(国指定名勝衆楽園)が設けられました。一方、出雲往来に沿った低地があてられた町人地や寺社地はたびたび水害を被りましたが、当時の面影を留める城東地区は平成25年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。



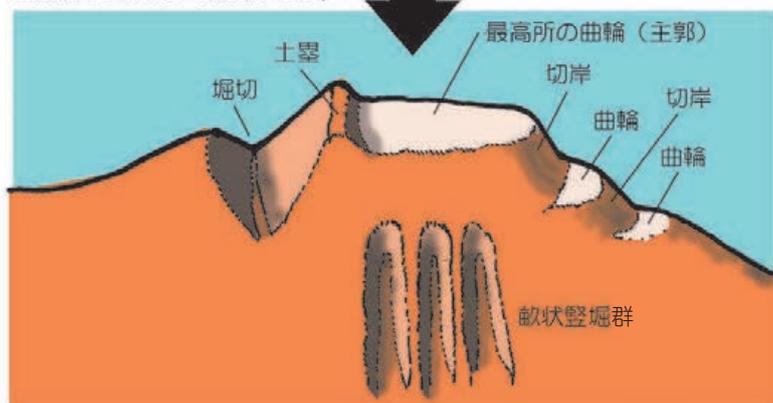
津山市城東伝統的建造物群保存地区

津山城と城下町 1/20,000

縄張り図の読み解き方



●上の縄張り図で表現された山城はこのような形状です。



山城の縄張り図では、ケバ線で山の斜面を表現します。ケバ線の元が斜面の上方で、先が下方になります。ケバ線の向きはその地点の傾斜方向を示し、間隔が狭いと急斜面で、広いと比較的緩やかな斜面です。

【縄張り(なわばり)】

城の基本設計で、曲輪、堀、土塁、出入口(虎口)などの遺構の配置や組合せのこと。

【曲輪・郭(くるわ)】

尾根や斜面を造成してつくった平坦地。中心となるものを主郭又は本曲輪(後の本丸)という。このほか、主郭を取り巻く細長い帯曲輪、主郭から下った場所に設けられた腰曲輪がある。

【切岸(きりぎし)】

敵の侵入をはばむため、曲輪周囲を人工的に切り崩した急崖。

【堀(ほり)】

城の防衛施設で、尾根を断ち切るように掘られた堀切、山の斜面に沿って掘られた縦堀、縦堀を連続して並べた畝状縦堀群、曲輪の周りを取り巻くように掘られた横堀がある。

【土塁(どるい)】

曲輪や堀の縁辺に土を盛ってつくった防御用の高まり。

【出入口(でいりぐち)・虎口(こぐち)】

城や曲輪の出入口。直線的、のぼり坂、屈曲した通路や門の前後の広場を組み合わせたものがある。

堀切で守る



切岸で守る



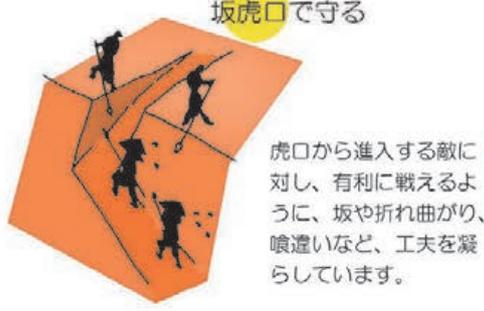
畝状縦堀群で守る



折れ曲がりを守る



坂虎口で守る



喰違い虎口で守る



【発行日】平成29年1月

【発行・編集】岡山県古代吉備文化財センター
〒701-0136 岡山県岡山市北区西花尻1325-3
電話 086-293-3211 FAX086-293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

※ホームページで岡山県中世城館跡総合調査の様子を公開中!

※注意事項

- ・城館跡の多くは個人の所有地です。場所や季節によっては立入りが制限されているところがあります。見学に際しては、立入りに十分注意し、マナーを守って行動しましょう。
- ・見学するときは、野外活動に適した服装を心がけ、十分に注意しましょう。
- ・クマ、イノシシ、マムシ、害のある虫や植物などに気を付けましょう。
- ・自分の位置を確認するため、方位磁石、地図やGPSなどの活用をおすすめします。
- ・城館跡は貴重な文化財ですから、大切にしましょう。